

学則の変更の趣旨等を記載した書類

a 学則変更（収容定員変更）の内容

工学部デジタルエンジニアリング学科（入学定員 75 名・3 年次編入学定員 2 名）の学生募集を平成 26 年度に停止し、当該学科の定員及び教育課程を、総合システム工学科内に移行する。

b 学則変更（収容定員変更）の必要性

本学は、「ものづくり」の現場において技術の複合化やシステム全体を総合的に考える技術者の養成が必要であることから、工学部の機械システム工学科、電気電子情報工学科、環境建設学科の旧 3 学科を改組転換し、平成 21 年度に総合システム工学科を設置した。また、本学工学部が立地する北九州市及び京築地域は日本でも有数の工業地帯（資料 1）であり、近年では自動車産業とその関連企業の進出が著しく増加したことから、地域社会並びに産業界のニーズに応えるべく、機械システム工学科を基礎に、電気電子情報工学の要素も合わせたデジタルエンジニアリング学科を同じく平成 21 年度に設置し、現在の 2 学科体制となった。

総合システム工学科は、総合的な工学教育と、機械工学、電気電子工学、情報システム、環境建設からなる専門分野を教授することを趣旨に教育研究活動を展開し、開設年度は定員を充足することはできなかったものの、次年度以降は順調に志願者数を伸ばし、安定した入学者を確保している（資料 2）。

一方、デジタルエンジニアリング学科は、全学をあげての広報活動による学科名称及び教育研究内容の周知と、平成 22 年度に文部科学省から選定された「大学生の就業力育成支援事業」による実践的技術者教育の導入、さらにその事業から派生して実現した日産自動車九州㈱との産学連携（資料 4）による実践教育プログラムの導入等で入学者の確保に努めた。しかしながら、設置から完成年度までの定員充足率の平均が 0.7 倍以上を充たすことができず（資料 2）、設置計画履行状況等調査結果でも定員充足率による留意事項が付された。

以上の事由から、平成 26 年度を以てデジタルエンジニアリング学科の学生募集を停止する。しかし、当該学科の第一期生の就職率は希望者比で 96.7%（就職希望者で未就職者 1 名）を達成しており、上場企業にも複数就職した実績から、産業界のニーズは高いことが実証できた。また、当該学科は開学して 5 年間で受験生等に対する認知度を確立することはできなかったが、産業界からの理解と潜在的な期待感が強いことから、当該学科の定員及び教員並びに教育研究内容は引き続き総合システム工学科で継承することとした。なお、デジタルエンジニアリング学科は、機械工学、電気電子情報工学を融合して創られた学科であり、当該学科の内容等を総合システム工学科で継承することにより、総合システム工学科の設置趣旨に変更をきたすことは一切ないとする。また、総合システム工学科にデジタルエンジニアリングの教育研究資源を入れることにより、本学が目指す技術の複合化やシステム全体を総合的に考える技術者養成教育の深化充実が図られることを計画している。

① 入学定員（編入学定員を含む）設定の考え方とその根拠となる学生募集の見通し

資料 2 に示すように工学部全体の入学定員は、平成 22 年度から 24 年度までは、ほぼ充足できている。また、平成 25 年度においては、工学部全体では定員を充足することはできなかったが、総合システム工学科の志願者数はほぼ前年度の数を保っている。さらに、工学部のおばせキャンパスは、本年 3 月にリニューアル工事が完了し、施設・設備・環境面でキャンパスアメニティーが向上し、入学志願者数の増加が期待できる。以上のことから、デジタルエンジニアリング学科の入学定員 75 名を総合システム工学科に移行する。

デジタルエンジニアリング学科の編入学定員 2 名については、短期大学や他の学部を卒業した者等の受入のほか、本学は社会人特別入試を設けており、編入学を希望する社会人もいることから、幅広く学びの機会を提供することを趣旨に、引き続き定員を維持する。

また、工学部総合システム工学科の分野による志願動向であるが、リクルートホールディングスが調査した「2012 入試実態調査大学・短期大学」の抜粋（資料 5）でも示されているように、平成 23 年度から理工系大学の志願者数は顕著に伸びている。また、工学部における同分野を有する近隣他大学の併願動向であるが、資料 3 のとおり本学と同県内の福岡工業大学、九州産業大学及び福岡大学が多く、国・公立大学法人では大分大学及び北九州市立大学が多い。この併願動向は、本学の都道府県別志願者動向（資料 3）とも連動しており、本学を志望する受験生の大半は、福岡県及び隣接する大分県に集中していることが分かる。なお、前述の本学志願者との併願が多い大学は、何れも本学より規模が大きく、教育研究内容や施設設備も充実した大学であり、本学としては単科大学のスケールメリットを活かし、開学から実践している「きめ細かい教育」の更なる深化充実と、キャンパスの立地を活かし産業界との連携を通じた実践的技術者教育の推進等により差別化を図りたい。また、近年は経済状況から自宅通学を希望する受験生も増えており、本学としては地元地域からの入学者確保のさらなる強化に向け、地域に志向した教育、研究、社会貢献を推進すると共に、成績優秀者に対する奨学生制度の他、平成 25 年度入試から経済的支援を主旨とした奨学生制度を導入し、経済的困窮者に対する大学進学機会の提供にも努めている。

② 卒業後の進路と養成する人材を受け入れる側の需要

本学は 18 年間、常に 90%以上の就職率を維持している。また、毎年 1,000 社を超える求人があり、学内で毎年開催する学内企業セミナーにも 100 社を超える参加企業がある。今年の工学部の就職率（希望者比）も 98.4%（資料 3）を達成しており、この数字からも本学工学部の卒業生は産業界からの人材的ニーズがあることを証明している。また、前述のとおり、本学の工学部は自動車産業をはじめとする製造業が集積する地域（資料 1）に立地しており、地域社会からその人材供給が求められていることと、平成 22 年度「大学生の就業力育成支援事業」に選定された際に設立した「地域人材育成機構」（資料 6）により、地域社会や産業界、自治体等からの意見も踏まえ、地域産業界のニーズにあった人材の養成にも取り組んでいる。さらに、平成 24 年度から北九州市と北九州活性化協議会の支援のもと、地元の九州工業大学、北九州市立大

学，北九州工業高等専門学校と本学とで，北九州地域産業人材育成フォーラム（資料 7）を結成し，学生に対する地元企業の紹介や，地元企業へのインターシップの推進に取り組み，学生の地元企業への情報提供と就業意識の涵養に努めているので，平成 25 年度以降は従来の就職先に加え，さらなる地元企業への就職拡大が期待できる。

c 学則変更（収容定員変更）に伴う教育課程等の変更内容

・教育課程の変更内容について

本学の教育課程表は，総合共通科目，基礎科目，基礎専門科目及び専門教育科目で構成されており，総合システム工学科の専門教育科目群にデジタルエンジニアリング学科の専門教育科目を加え，機械工学，デジタルエンジニアリング，電気電子工学，情報システム及び環境建設の 5 つの専門教育科目を配置する。

・教育方法及び履修指導方法の変更内容について

今回の学則変更による履修指導方法の変更はないが，特に本学では，開学当初から学生を少人数に分け，全教員で学生個々人の指導，助言を行う「ガイダンス制度」を導入しており，履修指導についても各ガイダンス担当教員により手厚く行っている。

また，工学部においては平成 25 年度から，工学実験を 1 年次の必修科目として開講し，機械工学・電気電子工学・情報システム・環境建設・デジタルエンジニアリングの各専門に関する実験を半期で全て体験できるようにしており，幅広い工学知識と工学に対する興味，関心への涵養，専門分野の理解と選択に繋がるよう工夫している。

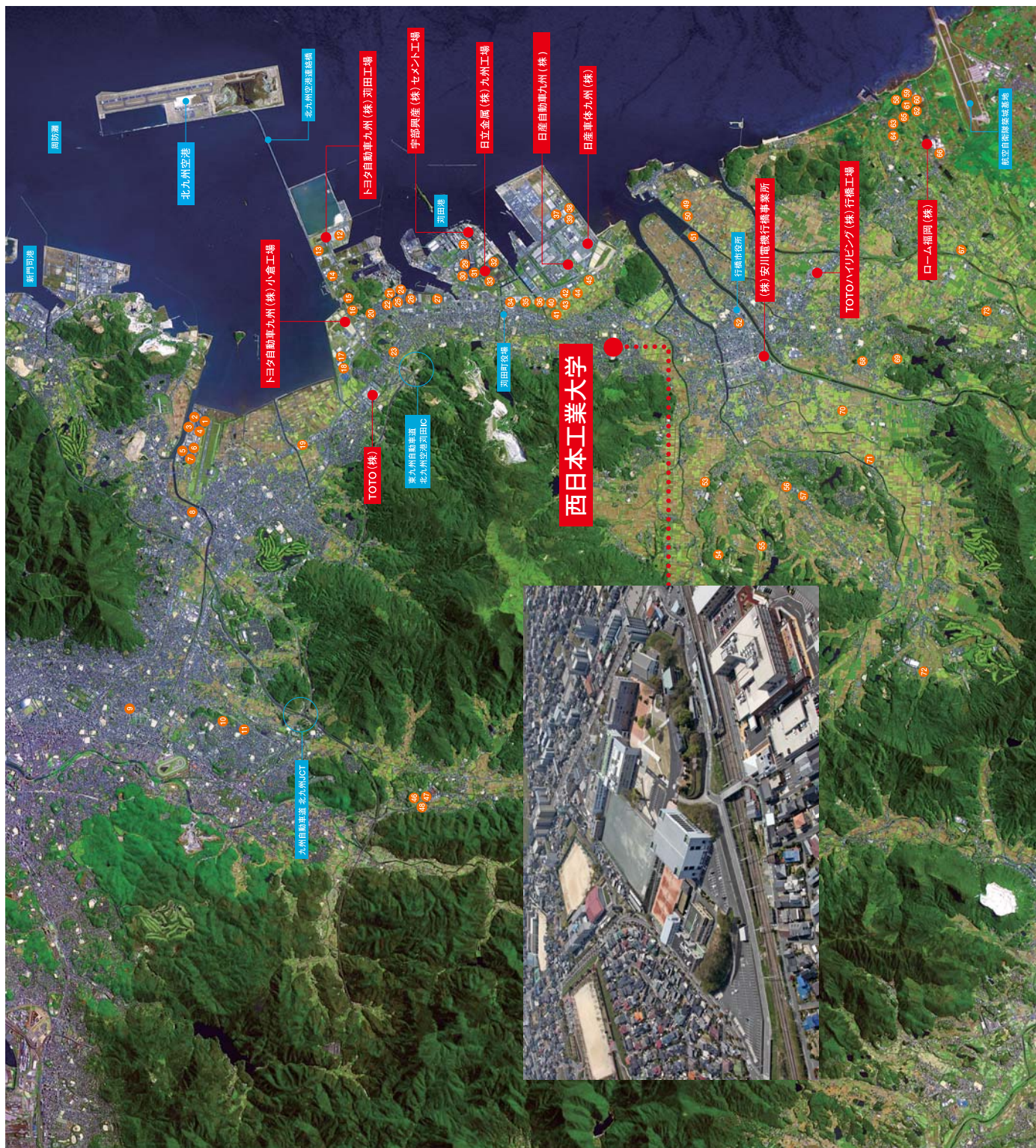
・教員組織の変更内容について

デジタルエンジニアリング学科は，当該学科の在籍学生がいなくなるまで，現行の組織，教育及び指導内容を維持する。また，当該学科の教員は平成 26 年度から学年進行に合わせて総合システム工学科の教育も兼務し，教育研究を担う計画である。なお，デジタルエンジニアリング学科は，主に機械工学及び電気電子工学の専門分野の教員で構成していることから，総合システム工学科における当該分野の教育や研究の強化に繋がることが期待できる。

おぼせキャンパス周辺の工業関連企業

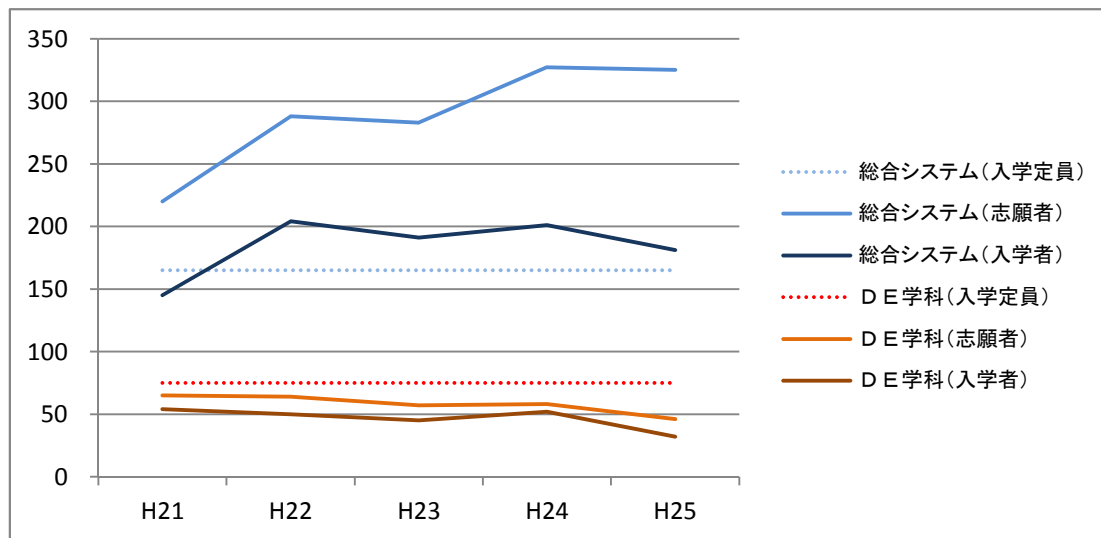
- 1 義経精密工業 (株)
- 2 (株) 戸畑ターレット工作所
- 3 北九州ダイカスト (株)
- 4 戸畑鉄工 (株)
- 5 三島光産 (株)
- 6 (株) 北九州樹脂製作所
- 7 白鉄工 (株)
- 8 韓惣工業 (株)
- 9 (株) 電技商会
- 10 (株) 杉本工業
- 11 (株) 高城機械製作所
- 12 (株) 九州スメルティングテクノロジー
- 13 湘南造船 (株) 九州工場
- 14 (株) 山崎工業
- 15 日本アルシ (株)
- 16 (株) 明和テック
- 17 (株) 九州イマセン
- 18 イナジニ・オートモティブ・システムズ (株) 北九州工場
- 19 (株) ニューメディアマシン
- 20 (株) 家田産業九州河田工場
- 21 (株) アイケイ・エス
- 22 (株) ロジコム 北九州営業所
- 23 マグ・マント (株)
- 24 (株) 日栄紙工社
- 25 平和自動車工業 (株)
- 26 豊鋼材工業 (株) 河田工場
- 27 三原スチール (株)
- 28 九州ホール工業 (株)
- 29 (株) 三江工業
- 30 日立金属 (株) 九州工場
- 31 (株) 佐賀鉄工所 北九州営業所
- 32 (株) 九州テクノメタル
- 33 堀崎子 (株) 九州事業所
- 34 (株) 北九州スリーボンデ化学
- 35 二引 (株) 九州支店
- 36 (株) 九州鉄鋼センター
- 37 (株) 西井漆料産業 河田営業所
- 38 フォルシア・ニッパバ九州 (株)
- 39 凡申産業 (株)
- 40 (株) 協和産業 河田工場
- 41 (株) 達商会福岡営業所
- 42 (株) ファルテック
- 43 (株) ダイワク
- 44 (有) 後藤精機
- 45 (株) みやこ産業
- 46 (株) 九州養熟
- 47 (株) 川村製作所
- 48 朝日工業 (株)
- 49 タカヤ化成 (株) 九州工場
- 50 (株) 富士技研
- 51 (有) 宮西コスモス
- 52 宮西設備 (株)
- 53 タカラ化成工業 (株) 九州行橋工場
- 54 (株) 晃大商事
- 55 (株) シンコウ製作所
- 56 九州アルファ (株)
- 57 福岡化成工業 (株)
- 58 ミツ星化成品 (株) 九州工場
- 59 (株) ニートクシーケー
- 60 日本特殊塗料 (株) 東九州工場
- 61 三島光産 (株) 大型成形金型事業部
- 62 (株) H&I塗装
- 63 (株) シンダ行橋工場
- 64 住江工業 (株)
- 65 (株) LWフォーム九州
- 66 日本ビニロン (株) 行橋工場
- 67 (株) 深江工作所 豊津工場
- 68 (株) 太平ハーネス
- 69 (有) 春日プラスチック工業
- 70 塚本精工 (株)
- 71 (有) ニックス
- 72 ユニフラス九州 (株)
- 73 錦隆工業 (株)

出典:九州産業・立地情報マップ(経済産業省・九州経済調査協会)
九州・山口の自動車関連部品工場等一覧(九州経済調査協会)



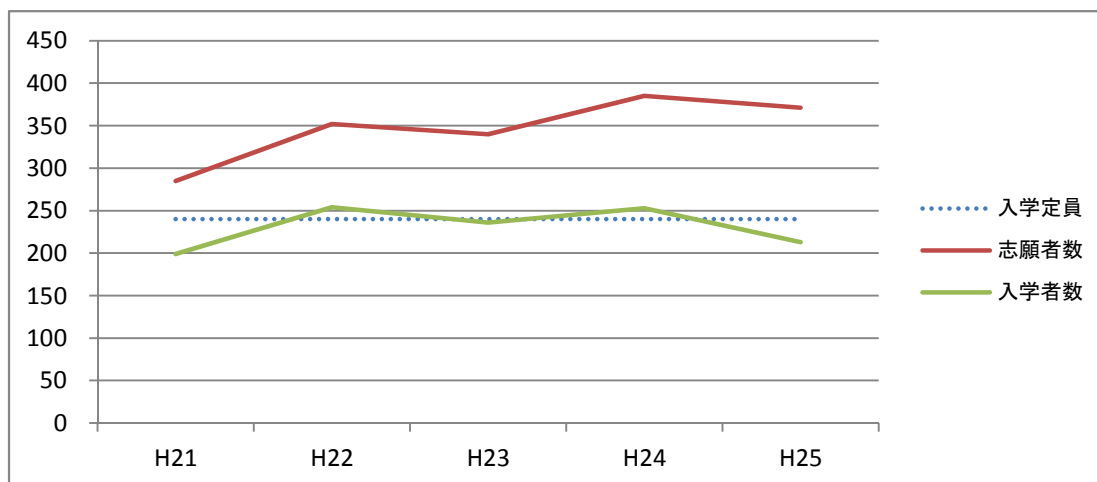
(資料2)

総合システム工学科・デジタルエンジニアリング学科の過去5年間の入試動向



	H21	H22	H23	H24	H25
総合システム(入学定員)	165	165	165	165	165
総合システム(志願者)	220	288	283	327	325
総合システム(入学者)	145	204	191	201	181
D E 学科(入学定員)	75	75	75	75	75
D E 学科(志願者)	65	64	57	58	46
D E 学科(入学者)	54	50	45	52	32
総合システム(定員充足率)	87.9%	123.6%	115.8%	121.8%	109.7%
D E 学科(定員充足率)	72.0%	66.7%	60.0%	69.3%	42.7%

工学部の過去5年間の入試動向



	H21	H22	H23	H24	H25
入学定員	240	240	240	240	240
志願者数	285	352	340	385	371
入学者数	199	254	236	253	213
定員充足率	82.9%	105.8%	98.3%	105.4%	88.8%

(資料3)

1. 過去3年間の都道府県別志願動向(大学全体)

平成23年度入試			平成24年度入試			平成25年度入試		
出身県	志願者数	増減	出身県	志願者数	増減	出身県	志願者数	増減
福岡	275	▼41	福岡	289	△14	福岡	304	△15
大分	43	△10	大分	53	△10	大分	74	△21
山口	26	△5	長崎	31	△12	鹿児島	27	△10
沖縄	22	△1	山口	27	△1	長崎	23	▼8
長崎	19	△3	鹿児島	17	△9	佐賀	22	△9
佐賀	18	△9	宮崎	14	△2	山口	18	▼9
熊本	12	▼2	佐賀	13	▼5	宮崎	14	—
宮崎	12	△8	沖縄	11	▼11	沖縄	14	△3
高知	10	△7	高知	11	△1	熊本	12	△5
鹿児島	8	▼4	検定等	9	△6	広島	11	△5

2. 一般入試(センター利用も含む)の併願大学の動向(工学部)

順位	平成23年度入試		平成24年度入試	
	併願大学名	受験者数	併願大学名	受験者数
1	福岡工業大	30	福岡工業大	86
1	福岡大	30	九州産業大	30
3	九州産業大	21	福岡大	21
4	北九州市立大	20	大分大	20
5	大分大	15	北九州市立大	15
6	九州職能大学校	13	山口大	9
7	宮崎大学	13	宮崎大	8
8	鳥取大	9	久留米工大	6
9	近畿大(生産理工)	8	鳥取大	4
10	久留米工業大	6	琉球大	3
			防衛大学校	3
			広島工大	3
			高知工科大	3
			北見工大	3

3. 過去5年間就職内定状況(就職希望者比)

学部	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度
工学部	98.9%	94.2%	97.4%	95.8%	98.4%
デザイン学部	94.2%	86.8%	88.3%	91.1%	94.7%
合計	97.1%	91.2%	93.5%	93.5%	96.8%

2012年(平成24年)4月5日(木曜日)

産

学

業

界

日産九州 西日本工大

産学連携協定に調印

社員3人、研究生として入学

日産自動車九州と西日本工業大(いずれも刈田町)が4日、産学連携協定を結んだ。日産の生産ラインで働く社員が研究生として同大に入学し、大学側が持つ技術を生かして製造現場の課題解決に取り組む。

同社は、生産ラインの社員に技術開発の知識や意欲を持たせることで生産性を高めたい考え。大学側は企業が必要とする技術を提供し、教員や学生が自動車製造の工程に携われるという利点がある。



▲研究生として入学する重永さん、益田さん、沼野さん(右から)



協定書に調印し、握手を交わす日産九州の児玉社長(左)と西工大の菊池学長

初年度は3人が研究生として入学する。圧造課の重永登志夫さん(45)、組立課の沼野英彦さん(41)、塗装課の益田心也さん(32)で、いずれも入社15〜27年目の中堅、ベテラン社員だ。

田さんは設備の改善がテーマで、学生や教員と共同で課題の解決に挑戦する。

この日は、日産九州のゲストホールで協定の調印式があり、同社の児玉幸信社長は「大学と企業が知的財

産を共有し、深化させるのは意義深い」と連携の意義を強調。3人の入学式もあり、西工大の菊池重昭学長が「技量の向上に活用してもらいたい。社会人として学生たちにアドバイスもしてほしい」と激励し、入学許可書を手渡した。

協定では、同社が主催する「日産E・V(電気自動車)カーグランプリ」の指導や監修を同大が行うことなども盛り込まれている。

1）設置者別志願状況

- 志願者数に回答があった706 大学における12 年度の志願者数は、368 万4888 人であった。12 年度、11 年度のいずれにも回答のあった大学の志願者数は前年度を6311 人（0.2 %増）とわずかに上回っている。前年度は1.3 %の増加であったので、減少幅は縮小しているものの、引き続き増加基調を継続している。募集人員（52 万2513 人）に対する志願倍率は前年度を0.1 ポイント下回る7.1 倍となった。
- 志願者数は国立、公立大学ともに前年度の増加から減少に転じているのに対し、私立は前年度に引き続き増加している。国立大学の志願倍率は4.3 倍と横ばいで推移しているのに対し、公立と私立とでは前年度を0.2 ポイント下回った。
- 03 年度との比較では、私立大学は志願者わずかに増加しているのに対し、国公立は減少した。特に国立大学の減少幅が大きくなっている。

■志願状況（設置者別）

	募集人員 (人)	志願者数 (人)	増減状況				志願倍率	
			2011～2012年度		2010～2011年度		2012年度	2011年度
			増減数 (人)	増減率 (%)	増減数 (人)	増減率 (%)	(倍)	(倍)
国公立 計	123,452	560,520	▲ 7,101	▲ 1.3	15,270	2.8	4.5	4.6
国立	95,571	407,781	▲ 3,377	▲ 0.8	9,185	2.3	4.3	4.3
公立	27,881	152,739	▲ 3,724	▲ 2.4	6,085	4.0	5.5	5.7
私立	399,061	3,124,368	13,412	0.4	31,211	1.0	7.8	8.0
全 体	522,513	3,684,888	6,311	0.2	46,481	1.3	7.1	7.2

＊志願者数は今年回収した回答大学（非公表除く）の集計であるが、増減状況（増減数、増減率）については
'11年度と'12年度、'10年度と'11年度の調査対象校をそろえて集計している。

■志願状況の推移（設置者別）

	志願者数(人)						2012年度指数 (’03年度＝100)	
	2003年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2012年度	2012年度
							(’03年度＝100)	(’03年度＝100)
国 立	466,130	405,022	392,371	401,973	411,158	407,781	87.5	
公 立	158,544	137,327	146,367	150,378	156,463	152,739	96.3	
私 立	3,088,238	2,938,972	2,949,451	3,078,317	3,111,335	3,124,368	101.2	
全 体	3,712,912	3,481,321	3,488,189	3,631,668	3,678,956	3,684,888	99.2	

＊表内数値は各年度の回収校（非公表除く）の集計結果であり、対象校をそろえていない。

2）大学種別志願状況

- 大学種別には理科系大学で志願者数の増加傾向が顕著にみられ、12 年度、11 年度のいずれも回答のあった大学の志願者数は、前年度を1 万6444 人（4.2 %）上回った。前年度9.7 %の大幅な伸びを示した理科系大学の志願者数は、12 年度も引き続き増加傾向が続く。これに対し、文科系大学は連続して前年度を下回り、本年度は減少幅を拡大させている。総合大学はゆるやかに増加し、女子大学は減少に転じた。
- 志願倍率は女子大学で横ばい、総合大学、文科系大学で低下するなかにおいて、理科系大学は前年度を0.4 ポイント上回り、7.7 倍に上昇した。
- 03 年度との比較では、総合大学が1 割以上の増加となっている以外は、いずれも減少している。とりわけ文系大学の減少幅が大きくなっている。

■志願状況（大学種別）

	募集人員 (人)	志願者数 (人)	増減状況				志願倍率	
			2011～2012年度		2010～2011年度		2012年度	2011年度
			増減数 (人)	増減率 (%)	増減数 (人)	増減率 (%)	(倍)	(倍)
総合大学	316,945	2,533,630	5,857	0.2	15,739	0.6	8.0	8.2
文科系大学	116,722	530,964	▲ 13,569	▲ 2.5	▲ 4,793	▲ 0.9	4.5	4.7
理科系大学	53,150	409,062	16,444	4.2	34,570	9.7	7.7	7.3
女子大学	35,696	211,232	▲ 2,421	▲ 1.1	965	0.5	5.9	5.9
全 体	522,513	3,684,888	6,311	0.2	46,481	1.3	7.1	7.2

＊志願者数は今年回収した回答大学（非公表除く）の集計であるが、増減状況（増減数、増減率）については
'11年度と'12年度、'10年度と'11年度の調査対象校をそろえて集計している。

■志願状況の推移（大学種別）

	志願者数(人)						2012年度指数 (’03年度＝100)	
	2003年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2012年度	2012年度
							(’03年度＝100)	(’03年度＝100)
総合大学	2,276,756	2,404,210	2,412,752	2,510,996	2,526,735	2,533,630	111.3	
文科系大学	771,854	559,161	543,067	550,277	545,901	530,964	68.8	
理科系大学	447,073	318,395	332,172	357,707	392,667	409,062	91.5	
女子大学	217,229	199,555	200,198	212,688	213,653	211,232	97.2	
全 体	3,712,912	3,481,321	3,488,189	3,631,668	3,678,956	3,684,888	99.2	

＊表内数値は各年度の回収校（非公表除く）の集計結果であり、対象校をそろえていない。

●大学種別の定義

総合大学：文科系学部と理科系学部が、共に1 学部以上ある大学（女子大学を除く）
文科系大学：学部がすべて文科系学部である大学（女子大学を除く）
理科系大学：学部がすべて理科系学部である大学（女子大学を除く）
女子大学：在学者がすべて女子である大学

注）「芸術・音楽学部」、「体育学部」は文科系学部を含む。
「その他」は教科内容により、文理を定義している。

2011年(平成23年)3月3日

木曜日

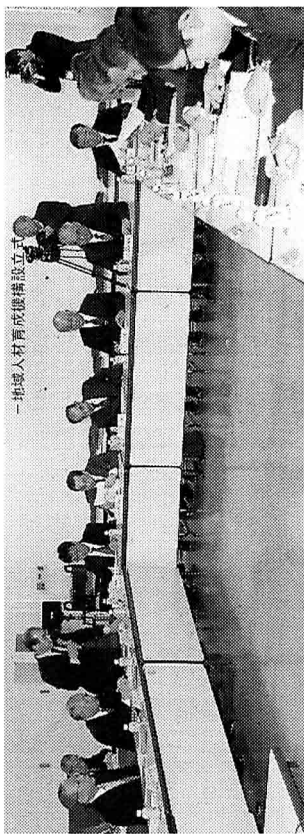
夏月

三日

金

曜

産学官で人材を育ていく
ことになった地域人材育成
機構の第1回事業推進会議
■ 刈田町新津一丁目



西工大は今年度、文部科学
省の「大学生の就業力育成

西日本工業大学おぼせキャンパス(刈田町新津一丁目)
で2日、産学官が連携して地域に根ざした人材育成を目指
す「地域人材育成機構」の設立式があった。第1回事業推
進会議もあり、西工大を中心に北九州市や地元の工業高
校、企業、行政が協力して、即戦力となる人材を育ててい
くことを申し合わせた。

(安楽秀忠)

支援事業」(年間2千万円、
5年間)の対象になり、昨
年12月から企業ニーズに応
じた実践的技術者教育を始
めた。

同機構の設立はその一環。
学生が一定期間、研修生とし
て企業で働くインターンシッ
プの受け入れ強化や効果的な
助言、共同研究の協力など、
新年度から本格的な人材育成
に力を入れていく。

メンバーは、学校が西工大
の教授や刈田工業高、小倉
工業高などの校長、企業は日
産自動車九州工場、トヨタ自
動車九州刈田工場、行橋自動
車産業振興協議会などの代
表、行政は県や行橋市、豊
前市、刈田町などの担当者ら
25人。

西工大は、就業力育成支援
事業運営委員会(委員長・坂
田豊工学部長)を設け、その
傘下で①人間力・キャリア形
成力の向上②実践教育環境の
構築・教材開発③企業インタ
ーシップの強化、など6部

会が活動している。

また、北部九州自動車生産
150万台規模やアジア地区
の自動車生産拠点化などを見
据え、同大は2009年にデ
ジタルエンジニアリング学科
を設置するなど、地域振興に
役立つ技術者育成に力を注い
でいるという。

意見交換では、企業側から
「人間力を高め、あいさつや
マナー、努力する力などを身
につけさせる教育をしてほし
い」「学生には大企業から中小
企業までインターンシップを
経験させ、もの作りの楽しさ
を知ってもらいたい」など、
大学側への注文が相次いだ。

北九州地域産業人材育成フォーラム インターンシップ参加者 募集！

■インターンシップ参加学生の募集■

平成23年度から就職活動期間が2か月短くなり、学生の皆さんは「企業研究」「自己分析」を早い段階から自発的に進めて行く必要があります。しかし、どのような企業、職業があるのかを研究する方法、また自分の適性を知る方法が分からないという人も多いのではないのでしょうか。企業（職業）の情報を得るためには、学校OB・OGの話を聞く、就職セミナーを利用する方法がありますが、「就業体験（インターンシップ）」に参加して、より深く身をもって体験することも重要な手段となります。

産（地元企業）・学（地元大学・高専）・官（北九州市）が連携して街全体で次世代の技術を担う人材を育成することを目的として発足した北九州地域産業人材育成フォーラムでは、地元企業でのインターンシップを行うことにより、皆さんのキャリア形成のきっかけづくり・社会人基礎力育成をサポート致します。

昨年度のインターンシップ経験者からは、「社員の方の働く姿勢を目の当たりにして自分に足りないものが見えた」「地元の企業にすばらしい技術があることを知った」との率直な感想も多く出されました。「社会人に求められる資質」「はたらくこと」を実際の就業体験を通して学ぶことができるこの機会をぜひ利用してください。

■ 北九州地域産業人材育成フォーラム ■ ■ インターンシップ事業の概要 ■

【対象企業】北九州地域の企業・団体等

【対象学生】

- ◇九州工業大学（全学部・専攻）
学部2～3年生、大学院1年生
- ◇北九州市立大学（国際環境工学部、研究科）
学部2～3年生、大学院1年生
- ◇西日本工業大学（全学部・専攻）
学部2～3年生、大学院1年生
- ◇北九州高等専門学校（全学科・専攻科）
学科4年生、専攻科1年生

【実習時期・期間】

夏期休暇中の2～3週間程度（企業の条件で決定）

《概ねの実施期間》

◇北九州工業高等専門学校 7月末～8月末日

◇大学（3校） 8月中旬～9月中旬

【実習内容】企業の実習内容に沿って実施されます。

【受入条件】企業の受入れ条件が尊重されます。

【保険加入】受入れが決定した場合、傷害保険、賠償保険の加入が義務付けられます。

※インターンシップの受入れ条件や実習内容については、企業から提出された「インターンシップ受入登録シート」に掲載されています。内容を確認の上、各校窓口へ問い合わせ、応募をしてください。

■インターンシップの流れ(概ねの日程)■

～4月末

・《受入れ登録》
企業から「受入登録シート」が提出されます。

5月1日
一斉公開

・《企業情報の公開》
提出されたデータを「北九州地域産業人材育成フォーラム」HPにて情報を公開します。

5月～
6月末

・《企業企業への応募》
第一次（5月末）、第二次（6月中旬）と2段階でエントリー受付を行います。
エントリーシートを各校窓口へ提出して下さい。
※応募締切厳守

～7月
初旬

・《選考・受入れ決定》
企業にて書類選考または面接を行い、受入れ決定します。フォーラム事務局より各校窓口へ連絡します。

～8月
上旬

・《事前研修・準備》
各校にて実習に対する心構え、マナー等の説明を行いますので、必ず参加して下さい。
インターンシップ保険加入、誓約書の作成。

7月末～
9月中旬

・《インターンシップ実習》
各企業様のカリキュラムに沿って実習。

10月頃

・《インターンシップ終了後》
インターンシップ終了後に実習に関するアンケート等を実施します。ご協力をお願い致します。

※北九州地域産業人材育成フォーラムでは、マッチング業務をコーディネーター(NPO法人 北九州テクノサポート)が担当し、企業や実習について説明を行う相談会を開催します。企業情報のほか、実習に対する不安な点など気軽に相談下さい。